

循環器内科

【特徴】

充実した医療施設と医療スタッフが整っており、循環器疾患全般の初期対応、急性期から慢性期治療を経験できる。呉医療圏での心血管カテーテル治療（PCI/EVT）件数は最も多く、ICD/CRT（植え込み型除細動器・両心室ペーシング）植込み認定施設である。日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設となっているため、虚血性心疾患、重症心不全、心肺停止患者など、豊富な症例への対応を学べる。また、心臓血管外科と協力して呉心臓センターとして診療に当たっており、チーム医療（内科的治療、外科的治療）を経験できる。

【一般目標】

循環器疾患の診療において、指導医・スタッフ・患者とのコミュニケーションを通じ、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を学ぶ。また循環器疾患の病態生理・診断・治療法を理解し、実践できるようになる。

【行動目標】

- 1) 医療者としての行動・態度ができ、患者とのコミュニケーションできる。
- 2) ベッドサイドで必要な、病歴聴取、身体所見をとり、重症度を判断できる。
- 3) 12誘導心電図を実施し、結果を判断できる。
- 4) 心エコーの基本手技を実施できる。
- 5) 胸部X線やCTなど必要な画像検査を理解し、検査結果を判断できる。
- 6) 負荷心電図、心筋シンチ、心臓CTの基本を理解できる。
- 7) 冠動脈造影の基本を理解できる。
- 8) ガイドラインに基づく診断・治療方針を立てることができる。
- 9) 適切なカルテ記載ができる。
- 10) 各疾患を理解し、ケース・プレゼンテーションができる。
- 11) チーム医療を理解し多職種と意見交換できる。
- 12) 包括的な予防治療を理解し、退院後の医療連携の重要性を理解できる。

【実習内容】

- 1) 指導医の受け持つ患者、日中に救急受診した患者を指導医と一緒に診療する。
 - ① 循環器疾患患者に対して、ポイントを理解した病歴聴取をする。
 - ② 身体診察を行い、緊急度の判断を行う。
 - ③ 12誘導心電図をとり、評価する。
 - ④ 心エコー検査（傍胸骨アプローチで長軸像、短軸像を描出）をする。
 - ⑤ 問診、身体診察、各種検査結果から、適切な診断を導く。
 - ⑥ Web 検索により重要な論文や各種ガイドラインを入手し、記載された内容を基に鑑別診断や治療計画を立てる。
 - ⑦ 学生用の紙カルテに診療内容を記載する。
- 2) 各種検査・治療を見学し、適応、手技、結果について、実践を通じて理解する。
 - ① 心臓カテーテル検査（冠動脈造影、PCI・EVT 治療、右心カテーテル検査）。
 - ② トレッドミル負荷心電図
 - ③ 薬剤負荷心筋シンチ
 - ④ 経食道心エコー
 - ⑤ 造影 CT、心臓 CT
 - ⑥ 心臓血管外科手術（手術・術後管理）
- 3) 多職種カンファレンスに参加し、チーム医療を経験する。
 - ① 心リハ・カンファレンスにおけるディスカッションに参加する。
 - ② 毎週金曜朝、ハートチーム・カンファレンスで、ケース・プレゼンテーションする。5分以内に発表できるように患者情報をまとめ、事前に準備しておく。
- 4) 循環器疾患および内科疾患全般の知識を高める。
 - ① 毎週火曜日、循環器カンファレンスで、症例検討会、論文抄読会に参加する。
 - ② 毎日、日々の実習内容から得た内容に関して、ポートフォリオを作成する。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
AM	ICU/CCU 回診	研修医朝カンファ 心リハ・カンファ	ICU/CCU 回診	研修医朝カンファ	ハートチーム・カンファ 各種生理検査
PM					
Evening		(循環器カンファ)	心カテカンファ	(内科カンファ)	

<カンファレンス> 【網掛け】は時間外のため任意

ICU/CCU 回診	月・水	8:00～	3A 病棟 Stuff Station
研修医朝カンファ	火・木	8:00～8:30	2 階医局カンファルーム
心リハ・カンファ	火	10:00～10:30	5B 病棟面談室
循環器カンファ	火	17:00～19:00	2 階医局会議室
心カテカンファ	水	16:00～16:30	心カテ室
内科カンファ	木	19:00～20:00	4 階大会議室
ハートチーム・カンファ	金	7:45～8:30	2 階医局カンファルーム

<検査・治療>

心臓カテーテル検査	月～金	9:00～	心カテ室 (1 階)
生理検査(*)	金	9:00～	生理検査室 (1 階)
(*) 心エコー、経食道心エコー、トレッドミル負荷心電図			
薬剤負荷心筋シンチ	金	9:30～	アイソトープ検査室 (B1 階)

<救急診療>

呉心臓センター 毎日 24 時間オープン
(救急患者が来院すれば、初期診断から診療の実践に参加可能。)